

<研究報告>

中学校英語科 CAN-DO リストのモデル作成

—長野県教育委員会と連携して—

田中真由美 信州大学学術研究院教育学系

酒井英樹 信州大学学術研究院教育学系

キーワード：CAN-DO リスト，学習到達目標，評価

1. はじめに

平成 23 年に文部科学省より発表された「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」（文部科学省，2011）を受け，平成 25 年には「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」（文部科学省，2013）が発表された。以降，全国の中・高等学校では CAN-DO リストの形での学習到達目標（以下，CAN-DO リスト）を作成することが求められている。筆者らは平成 26 年度に長野県教育委員会教学指導課による CAN-DO リスト作成委員会（以下，CDL 作成委員会）のメンバーとして，長野県中学校 CAN-DO リストのモデル作成に携わった。本稿では作成したモデルとその作成プロセスについて報告する。

2. CAN-DO リスト作成委員会の概要

CDL 作成委員会は，委員長（教学指導課長），副委員長（教学指導課義務教育指導係長），指導者（外部有識者）2 名，委員（教育事務所指導主事，中学校教諭，総合教育センター専門主事，教学指導課高校教育指導係）10 名，事務局（教学指導課義務教育指導係）1 名の計 15 名で組織された。筆者らは指導者（外部有識者）として参加した。

CDL 作成委員会の目的は，中学校における授業改善の取り組みの一環として，協力校 2 校を指定しながら，長野県における CAN-DO リストの県モデル作成を目指し，その取り組みの成果の普及を図ることである。協力校には長野市立西部中学校と上田市立第三中学校が選ばれた。CDL 作成委員会の会議は平成 26 年度に 8 回行われた。筆者らは委員及び事務局と共に CAN-DO リスト作成について議論を進め，ポスター形式の「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」（長野県教育委員会，2015a）とパンフレット形式の『長野県中学校 CAN-DO リスト作成の手引き（平成 26 年度版）』（長野県教育委員会，2015b）を作成した。

3. 「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」（ポスター）

3.1 ポスターの概要

平成 26 年度末に完成した「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」は、A3 サイズの両面カラー印刷のポスターである。CAN-DO リストの PDF 版（長野県教育委員会，2016a, 2016b）は長野県教育委員会ホームページより取得可能である。一方の面は中学校英語検定教科書の New Horizon 版，もう一方の面は New Crown 版のリストとなっている。これらの教科書は長野県の多くの中学校で使用されている。中学校では教科書の各章を基に単元を構築することが多いため，教科書に準拠した CAN-DO リストを作成し，実際に中学校で活用されることをねらいとした。

CAN-DO リストは（1）4 技能についての 3 年間の学習到達目標，（2）教科書の特徴に準拠した各学年の学習到達目標，（3）単元計画の例で構成されている。学習到達目標は（1）タスク・テスト条件，（2）テキスト・パフォーマンスの質，（3）言語行為の 3 要素を含んだ能力記述文の形で具体的に表されている。能力記述文を明確な構成要素によって具体的にしたのは，各中学校で目標を立て，指導や評価で活用しやすくするためである。ポスターの構成と能力記述文について，以下の節で詳しく述べる。

3.1 ポスターの構成

表 1 は「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」の枠組みである。表の最上部にある「外国語表現の能力」，「外国語理解の能力」とは，外国語科における 4 つの「評価の観点」の内の 2 つである。前者はスピーキングとライティング，後者はリスニングとリーディングの能力である。その下に書かれているのは，学習指導要領における各技能の指導目標である。3 年間の学習到達目標は，長野県内の中学生に最低限身に付けさせたい能力であり，New Horizon 版と New Crown 版の CAN-DO リストにおける共通の目標である。

表 1：「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」の枠組み

	外国語表現の能力		外国語理解の能力	
	SPEAKING(話すこと)	WRITING(書くこと)	LISTENING(聞くこと)	READING(読むこと)
中学校 学習指導要領の目標	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする	英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
3年間の 学習到達目標	既習の言語材料を使って、状況に応じた口頭のやり取りをしたり、準備する時間があれば、まとまりのある話をしたりすることができる。	既習の言語材料を使って、自分の考えや経験したこと、身近な事柄について、まとまりのある英語を書くことができる。	聞き取りの観点が与えられたり、2度繰り返されたりすれば、既習の言語材料を使ったまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を理解することができる。	読み取りの観点が与えられれば、既習の言語材料を使ったまとまりのある英語を読んで、概要や要点を理解することができる。
3年生 「学習到達目標」				
3年生 単元計画の例 (指導単元と評価規準)				
2年生 「学習到達目標」				
2年生 単元計画の例 (指導単元と評価規準)				
1年生 「学習到達目標」				
1年生 単元計画の例 (指導単元と評価規準)				

各中学校は、生徒の実態を踏まえて 3 年間の学習到達目標に関連した目標を設定する。各学年の技能ごとの学習到達目標は 1 つかそれ以上設定する。スピーキングに関しては、やり取りと発表それぞれについて目標を設定する。これらは、CEFR (Council of Europe, 2001) ¹⁾ の 5 技能の内のやり取りと発表の 2 技能を参考にしたものである。やり取りは 2 人以上の人数での会話形式で、発表はモノローグ形式で行う。単元計画の例では、学習到達目標を達成するために行う指導単元と単元に準拠した具体的な評価規準である。単元名は、評価規準の後ろに括弧書きで示す。

以上の構成要素を、New Horizon 版の「話すこと」を例に示したのが表 2 である。各学年の学習到達目標と同様に、単元の評価規準も「～できる」という能力記述文で表現されており、後者は前者をより具体的にしたものとなっている。例えば、やり取りについての 3 年生の学習到達目標は「身近な話題について、状況に応じた適切な表現を使ってやり取りをすることができる。」であり、3 年生の単元計画の評価規準と指導単元は、「道案内の場面で、乗り物での行き方をたずねる表現を使ってやり取りすることができる (Speaking + 3 道案内)」、「映画に誘う場面で、経験や意向を聴いたり、提案したりする表現を使ってやり取りすることができる (Speaking + 1 映画へのさそい)」である。

表 2 : 「長野県中学校 CAN-DO リスト New Horizon 版」3 年生話すことの学習到達目標

中学校 学習指導要領の目標	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする
3 年間の 学習到達目標	既習の言語材料を使って、状況に応じた口頭のやり取りをしたり、準備する時間があれば、まとまりのある話をしたりすることができる。
3 年生 「学習到達目標」	<p>◆身近な話題について、状況に応じた適切な表現を使ってやり取りをすることができる。</p> <p>◆準備する時間があれば、身近な話題について、5 文以上のまとまりのある英語で情報を伝えたり、意見を述べたりすることができる。</p>
3 年生 単元計画の例	<p>自分のなりたい職業について、5 文以上のまとまりのある英語で紹介することができる。(Multi+3 なりたい職業)</p> <p>身近な話題について賛成・反対の理由とともに 5 文以上の英語で意見を伝えることができる。(U5 Electronic Dictionaries - For or Against)</p> <p>道案内の場面で、乗り物での行き方をたずねる表現を使ってやり取りをすることができる。(Speaking+3 道案内)</p> <p>映画に誘う場面で、経験や意向を聞いたり、提案したりする表現を使ってやり取りをすることができる。(Speaking+1 映画へのさそい)</p>

3.2 能力記述文

次に、学習到達目標と単元の評価規準の能力記述文について説明する。能力記述文の構成

¹⁾ 「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標設定のための手引き」(文部科学省, 2013)によると、CAN-DO リスト作成の際、外部団体が作成した CEFR 等の指標を参照することが可能である。

要素は、CEFR を細分化し、日本の英語教育用に構築した CEFR-J（投野，2013）を参考にして作成した。CEFR-J の能力記述文は、観察及び評価可能な言語活動について、①どのようなタスクが、②どのような言語の質で、③どのような条件下でできているかという 3 要素から構成されている。これらの要素は受容技能では、①task, ②text, ③condition, 発表技能では①performance, ②quality, ③condition と分類されている。表 3 はこれらの受容技能と発表技能の能力記述文を要素ごとに分解した例である。

表 3：CEFR-J における能力記述文の 3 要素の例

読むこと（受容技能）	task	text	condition
ゲームのやり方、申込書の記入のしかた、ものの組み立て方など、簡潔に書かれた手順を理解することができる。	手順を理解することができる	ゲームのやり方、申込書の記入のしかた、ものの組み立て方など	簡潔に書かれた
やり取り（発表技能）	performance	quality	condition
個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、社交的な会話を続けることができる。	社交的な会話を続けることができる	簡単な英語を多様に用いて	個人的に関心のある具体的なトピック

（投野，2013，pp.101-104 を基に筆者らが作成）

筆者らは、能力記述文の構成要素を検討した際、CEFR-J における受容技能と発表技能で同位置に置かれている task と performance, text と quality という概念を表す用語が違ふことや、受容技能の condition と発表技能の quality の概念が似ていることなど、技能ごとの要素の違いを理解することは困難であると感じたため、より簡略化した枠組みが必要であると考えた。さらに、学習到達目標として指導と評価への活用が容易になるような要素の構成になることが重要であると考え、①テスト・タスク条件、②テキスト・パフォーマンスの質、③言語行為の 3 要素で構成した。例として、New Crown 版 CAN-DO リストにおける 1 年生の聞くこと、書くことの学習到達目標を要素ごとに分解したものを表 4 に示す。

表 4：長野県中学校 CAN-DO リストの能力記述文の要素

	テスト・タスク条件	テキスト・パフォーマンスの質		言語行為
		(A) トピック・場面	(B) 言語的特徴	
聞くこと	聞き取りの観点が与えられ、2 度繰り返されれば、	身近な話題についての	5 文程度の英語を聞いて、	重要な情報を理解することができる。
書くこと	モデル文を参考にすれば、	自分や身近な人や事柄について、	3 文以上で	紹介文を書くことができる。

CEFR-J の condition という概念と異なり、この能力記述文の枠組みでは、「条件」という言葉はテストやタスクを行う際の学習者に与える条件である。例えば、表 4 の聞くことの学習到達目標で示されているテスト・タスク条件を設定するということは、「いつ、どこ

で、だれが、何を」のような情報を問う問題を与えることによって聞き取りの観点を提示することである。この条件は指導と評価の両方において一貫して与えられる。ただし、生徒自ら聞き取りの観点を設定させるという指導であれば、条件を設定する必要はない。

「テキスト・パフォーマンスの質」とは、聞かせたり読ませたりするテキストの質や話したり書いたりするパフォーマンスの質のことであり、(A) トピック・場面と (B) 言語的特徴の 2 種類に分類される。CEFR-J における受容技能の **text** と発表技能の **condition**、受容技能の **condition** と発表技能の **quality** に相当する要素をそれぞれ、「トピック・場面」、「言語的特徴」とした。「トピック・場面」は、身近か社会的か、日常か公けかなど、どのような種類のトピックや場面なのかに関する要素である。「言語的特徴」は量や質などの言語的特徴であり、指導や評価が具体的になるよう「5 文程度」などの数値を入れることができる。CEFR-J では具体的な数値は入っておらず「簡単な」のような難易を示す表現が用いられているが、学習到達目標を具体的な評価基準作成につなげるためには、大まかな数値を入れる必要がある。この「言語的特徴」は、数値の他に「まとまりをつけて」といった質の面からも作成することができる。

3 番目の「言語行為」は、言語を用いて何ができるかを示したものである。文末は「～できる」になる。この要素の中には「紹介文を書くことができる」のように、「紹介文」という具体的なジャンルを入れることもできる。

4. 「長野県中学校 CAN-DO リスト」作成のプロセス

CDL 作成委員会では、3 年間の学習到達目標を最初に設定するのではなく、教育実践を反映させるために、図 1 のように、実践の見直しから各学年の学習到達目標を設定し、最後に 3 年間の学習到達目標を作成するというボトムアップ方式で CAN-DO リストを作成した。

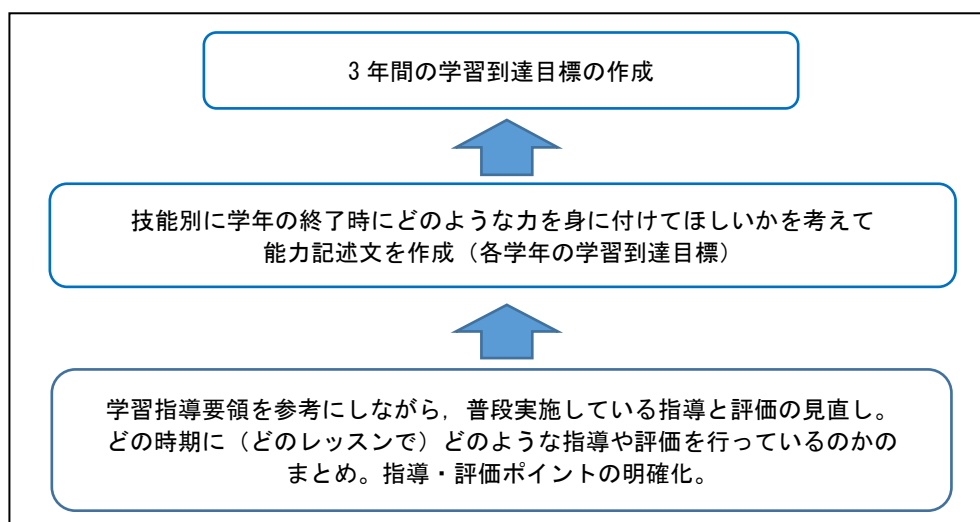


図 1：ボトムアップ方式による学習到達目標設定

まず、CDL 作成委員会のメンバーのうち、現職中学校教員と主事を CAN-DO リストの New Crown 版作成グループと New Horizon 版作成グループの 2 つに分け、学習指導要領に書かれている中学校外国語科の目標と技能ごとの（ア）～（オ）の指導事項を参考にしながら、これまで行ってきた言語活動とそれに対応する指導事項、及び学年とレッスンを表に記入した。図 2 は New Horizon 版の作成グループのメンバーが記入した第 3 学年の取り組みの振り返りシートである。例えば、3 年 2 学期では、話すことの（ウ）「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。」に関係するものとして「理由をつけて反対か賛成の議論をする」、「電話で伝言を頼む」、「反対か賛成かの議論をする」、「乗り物での行き方を尋ねたり答えたりする」という言語活動が行われた。各メンバーがこのように振り返り表に記入した言語活動をそれぞれ付箋に書き写し、各グループで技能と学年ごとに付箋をまとめ、共通して行われた言語活動や特に指導したいポイントを抽出し、それらが教科書のどのレッスンで行われたかを共に確認した。その後、筆者らのうち一方が New Crown 版、もう一方が New Horizon 版の学習到達目標の案を、付箋でまとめられた言語活動を参考にして作成した。最後に、CDL 作成委員会で能力記述文の枠組みに当てはめる構成要素の最終確認をした後、New Crown 版と New Horizon 版で共通の 3 年間の学習到達目標を作成し、「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」とした。

CDL 作成のために・ボトム①・実践を振り返る										記入者【 】 教科書【(NH)・NC・()】									
話すこと					書くこと					聞くこと					読むこと				
言語活動					言語活動					言語活動					言語活動				
アイウエオ					アイウエオ					アイウエオ					アイウエオ				
3 年生	3 学期														偉人の伝記を読み意見や感想を述べる				○
															長い物語のあらすじを読み取る		○		
					理由をつけて反対か賛成の議論をする				○						伝説芸能について読みメモをとる			○	
					電話で伝言を頼む				○						偉人の伝記を読み意見や感想を述べる				○
					反対か賛成かの議論をする				○	なりた職業について 5 文以上で書く				○	反対か賛成かの議論を読み、自分の意見を述べる				○
					乗り物での行き方を尋ねたり答えたりする				○	スキットを作成する				○	レポートの発表を聞く				○
					自分にとって簡単なことや難しいことを伝える				○	理由をつけて反対か賛成かのレポートを書く				○	失敗談を読む			○	
															戦争の物語の内容が伝わるように音読する			○	
															世界の遊びについて読みメモをとる				○
															フェアトレードについて読む			○	
1 学期					相手を誘ったり、提案したりする				○					○	食事をすすめられて適切に反応する				
					経験したことについて問答する				○	修学旅行について 5 文以上で書く				○	社会科の授業を聞く				○
					写っている町にどれくらいいるか問答する				○	ファンレターを書く				○	テレビ中継を聞く				○
					1 枚の写真を使って show&tell する				○	日本文化について 5 文以上で書く				○	活動の説明を聞く			○	

図 2：CAN-DO リスト作成のための実践の振り返りシートの画像

5. 各学校での CAN-DO リストの作り方

「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」はボトムアップ方式で作成したが、各中学校で CAN-DO リストを作成する場合は、トップダウン方式でも作成可能である。

トップダウン方式では、(1)「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」の学年の学習到達目標が自校の生徒に適切な目標となっているかを検討し、(2) 難しすぎたり、簡単すぎたりする場合には、タスク・テスト条件やテキスト・パフォーマンスの質を別の表現に書き換えて、難易を調整する。1～3 学年の学習到達目標を作成したら、各学年の学習到達目標に照らし合わせて (3) 年間指導計画を見直して単元の目標を明確にし、(4) 評価計画を見直す。

他方、ボトムアップ方式では、(1) 普段実施している指導を振り返り、どの時期に、あるいはどのレッスンで、どのような指導を行っているかをまとめ、特に指導したいと考えているポイントを明確にする。その後、(2) 技能別に、学年の終了時にどのような力を身に付けてほしいかを考えて各学年の学習到達目標を書き、(3) 3 年間の学習到達目標を達成するために学習到達目標が適切かを検討したり、「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」と比較したりして、必要であれば目標の調整を行う。その後は、上記のトップダウン方式と同様に、年間指導計画と評価計画を見直す。

6. CAN-DO リストの作成と授業改善

6.1 各学校の特色を活かした CAN-DO リストの作成

ボトムアップ方式で、CDL 作成委員会に所属する 2 名の現職中学校教諭（A 教諭，B 教諭）が、勤務する学校の CAN-DO リストの作成と平行して、指導と評価の改善にも取り組んだ。取り組んだ学校は長野市立西部中学校と上田市立第三中学校である。筆者らは、長野市立西部中学校の書くこと、上田市立第三中学校の読むことの指導と評価の授業改善に関わった。

6.2 活用事例①：書くこと

長野市西部中学校英語科では New Crown の教科書を使用していた。「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」の New Crown 版 CAN-DO リストでは、書くことの学習到達目標に「辞書を使えば～できる」のように、テスト・タスク条件として辞書の使用を挙げている。しかし、西部中学校では 1 年次より生徒が既習の語彙・文法を用いて英文が書けるようになるための指導や、内容について考える時間を与えてから書く指導を行っているため、「内容について考える時間が与えられれば」という条件を能力記述文に加えた 2, 3 学年の学習到達目標を作成した。表 5 は、西部中学校の書くことについての各学年の学習到達目標である。

ステップ 1（評価方法の決定）では、ライティング・タスクを設定した。1 年生と 2 年生の学習到達目標（表 5 の 1 学年（ア）、2 学年の（ア））を考慮し、自分の友達や家族のことについて自由に書くというタスクを与えた。2 学年の学習到達目標（ア）で「内容について考える時間があれば」とあるため、考える時間を含めた 5 分程度をタスクの制限時間とした。

ステップ 2（評価時期の決定）では、New Crown の Lesson 4「町の紹介文を書こう」の

終了後にタスクを行うことに決めた。

ステップ3(評価基準の設定)では、①5文程度で書いている、②まとまりをつけている、③自分の気持ちを加えている、という3観点を設定し、①～③を全て満たせばA(十分満足できる)、①はできるが②と③のどちらか一方ができない場合はB(おおむね満足できる)、①ができていない場合と、①はできるが②と③が両方でできていない場合はC(努力を要する)と判定することにした。

表5：書くことの学習到達目標

学年	学習到達目標（書くこと）
3	(ア) 内容について考える時間が与えられれば、自分の考えや、自分の体験したこと、身近な事柄について5文程度で、詳しく書くことができる。 (イ) 内容について考える時間が与えられれば、読んだり聞いたりした事柄について2～3文程度で、理由とともに感想や考えを書くことができる。
2	(ア) 内容について考える時間が与えられれば、自分の経験したことや身近な事柄について5文程度で、まとまりをつけて、自分の気持ちとともに書くことができる。 (イ) 内容について考える時間が与えられれば、様々な話題について書かれた英語を読み感想や考えを書くことができる。
1	(ア) モデル文を参考にすれば、自分や身近な人や身近な事柄について5文程度で紹介文を書くことができる。

(長野市立西部中学校のCAN-DOリストを基に筆者らが作成)

ライティング・タスクを評価した結果、表6のような結果となった。生徒24名のうち、①～③を全てできたA評価の生徒は8名であった。1年生の学習到達目標に含まれる5文程度を書いていないC判定の生徒4名には分量を多く書く指導をする必要があることがわかった。5文程度書いているが、まとまりをつけておらず、気持ちを加えていないC判定の生徒が3名、B判定の生徒9名のうち、まとまりをつけていない生徒が5名、気持ちを加えていない生徒が4名いたことから、まとまりのつけ方と気持ちの加え方については年度内に継続して指導する必要があることがわかった。

表6：ライティング・タスクの評価結果

	5文程度で書くことができる。	内容について考える時間が与えられれば、自分の経験したことや身の回りの事柄について、5文程度で、まとまりをつけて、自分の気持ちとともに、書くことができる。
A	20名	8名
B	0名	9名 【内訳：5名（まとまりをつけていない）、4名（気持ちを加えていない）】
C	4名	7名 【内訳：4名（5文程度で書いていない）、3名（5文程度書いているが、まとまりをつけておらず、気持ちを加えていない）】

6.3 活用事例②：読むこと

上田市立第三中学校英語科では使用教科書である New Horizon に対応した CAN-DO リストを作成した。表 7 は読むことに関する各学年の学習到達目標である。第三中学校では読むことの評価方法として、定期テストだけでなく普通の授業内に行うリーディングテストも取り入れている。

表 7：読むことの学習到達目標

学年	学習到達目標（読むこと）
3	読み取りの観点が与えられれば様々な話題についてまとまりのある英語（複数パラグラフで、300 語～400 語）で書かれた対話文や説明文を読んで、概要や要点を理解することができる。
2	読み取りの観点が与えられれば身近な話題についてまとまりのある英語（50～100 語）で書かれた対話文や説明文を読んで、重要な情報を理解することができる。
1	読み取りの観点が与えられれば身近な話題についてまとまりのある英語（5～10 文）で書かれた紹介文などを読んで、重要な情報を理解することができる。

（上田市立第三中学校の CAN-DO リストを基に筆者らが作成）

第三中学校の B 教諭は、読むことの授業で教科書本文の内容理解自体が目的となってしまうことを改善するために、作成した CAN-DO リストを基に、各単元で生徒が何ができるようになれば良いかという視点で単元を構築し、そのために必要な教材や手立を用意した。例えば、3 年生の偉人伝を扱った読むことの単元では、事実を述べている英文からその意味や価値を見出していく力を定着させたいと願い、教科書本文だけでなく、自作の教材も使用して、「偉人についてのテキストを読んだ感想を英文で書く」という目的を持って読む活動を行った。活動で使用した自作教材はマララ・ユスフザイに関するテキストである。生徒たちは「マララさんはなぜノーベル賞を受賞したのだろう」という観点を持って、本文から情報を抜き出し、理解したことに基づいて感想を書いた。この活動は 3 年生の読むことの学習到達目標「読み取りの観点が与えられれば様々な話題についてまとまりのある英語（複数パラグラフで、300 語～400 語）で書かれた対話文や説明文を読んで、概要や要点を理解することができる。」に準拠した指導である。このように、読みの観点を持ち、その観点に関する感想を書くという目的を持ったリーディングの指導を行った結果、定期テストの初見の英文を用いた読解問題で A 評価（正答率 70%以上）の生徒の割合が、5 月は 54%だったのに対して、10 月は 79%になった。感想を書く前に読みの観点と関係のある事実を抜き出したり、線を引くなどして参照するよう指導したことで、テキストを何度も注意深く読むようになったことが、定期テストにおける読解力向上の理由と考えられる。

7. まとめ

本稿では「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」とその作成プロセス、

活用事例について報告した。長野県教育委員会の CDL 作成委員会では、実践を踏まえた CAN-DO リストのモデルになるよう、委員が言語活動実践を振り返った後、まず 1 学年の学習到達目標を決め、その後、2 学年、3 学年の目標を順に決め、最終的に 3 年間の学習到達目標を設定するというボトムアップ方式を採った。各学校で CAN-DO リストを作成する場合は、「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」を参考に学習到達目標を設定するトップダウン方式か、CDL 作成委員会が行ったボトムアップ方式のいずれかで行うことを提案した。

「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）」の主な特徴は、(1) 長野県内の中学校で採択されている 2 種類の英語検定教科書に準拠していること、(2) 能力記述文が①タスク・テスト条件、②テキスト・パフォーマンスの質、③言語行為の 3 要素から構成されていること、そして、(3) 学習到達目標に準拠した単元の評価基準と指導単元名がある、という 3 点である。これらの特徴は、CAN-DO リストを実際の指導と評価へ活用させるための工夫である。

CAN-DO リストを作成した中学校では、生徒の書く力がどの程度身に付き、今後どのような指導が必要なのかを把握でき、教科書本文の内容理解のためだけではなく読む力を向上させるための指導が可能となった。CAN-DO リストを作成するだけでなく、目標に準拠した指導とパフォーマンス・テストなどの方法での評価を行い、生徒の目標達成度を把握した上で指導の改善や目標の修正を図ることが、生徒の英語コミュニケーション能力向上のために必要である。

8. 今後の課題

筆者らは、現行の学習指導要領を踏まえた長野県中学校の CAN-DO リストのモデルと 2 校の CAN-DO リスト活用事例の作成に関わった。筆者らの所属する信州大学教育学部は、文部科学省より委託を受け、平成 28 年度に「中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究」を開始した。長野県内の拠点校と共に、次期学習指導要領の検討の中で提案されている目標案と国の指標形式の目標案（文部科学省，2015），CEFR（Council of Europe, 2001）を参照した学校ごとの CAN-DO リストを作成し、学習到達目標に基づいた指導と評価の改善が生徒の英語コミュニケーション能力にどのように影響するかについての実証研究を行う。

謝 辞

本研究報告は、2015 年 6 月に実施された中部地区英語教育学会和歌山大会での口頭発表「長野県中学校 CAN-DO リスト（平成 26 年度モデル）の作成」に基づいて加筆修正したものである。本研究を発表することについて長野県教育委員会より許可を頂いた。感謝申し上げる。

文 献

- Council of Europe (2001). *Common European framework for reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.
- 投野由紀夫 (2013). 『CAN-DO リストの作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック (CD-ROM 付)』東京：大修館書店.
- 長野県教育委員会 (2015a). 「長野県中学校 CAN-DO リスト (平成 26 年度モデル)」(ポスター) 長野：長野県教育委員会事務局教学指導課.
- 長野県教育委員会 (2015b). 『長野県中学校 CAN-DO リスト作成の手引き (平成 26 年度版)』. 長野：長野県教育委員会事務局教学指導課.
- 長野県教育委員会 (2016a). 「長野県中学校 CAN-DO リスト (平成 26 年度モデル) New Crown 版」(PDF)
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/gakko/sonota/documents/can-donc.pdf>
- 長野県教育委員会 (2016b). 「長野県中学校 CAN-DO リスト (平成 26 年度モデル) New Horizon 版」(PDF)
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/gakko/sonota/documents/can-donh.pdf>
- 文部科学省 (2011). 「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～」外国語能力の向上に関する検討会 (平成 23 年 6 月 30 日)
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf
- 文部科学省 (2013). 『各中学校・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』文部科学省初等中等教育局 (平成 25 年 3 月)
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf
- 文部科学省 (2015). 「中央教育審議会教育課程部会外国語ワーキンググループ第 3 回資料, 平成 27 年 12 月 1 日配布資料」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/17/1365351_1.pdf

(2016年 9月29日 受付)
(2016年12月3 日 受理)